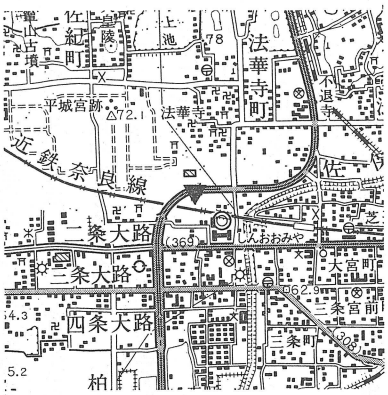
奈良・平城京左京二条二坊坊間路西側溝

1 所在地　奈良市二条大路南一丁目
2 調査期間　一九九一年（平3）一〇月
3 発掘機関　奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
4 調査担当者　代表　町田　章
5 遺跡の種類　都城跡
6 遺跡の年代　奈良時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

店舗建設に先立ち、左京二条二坊五坪の東辺を限る東二坊坊間路西側溝を平城宮第二二三―一三次調査として調査したものである。調査区は第一二三―二七次調査区と重複し、全長一九mにわたり溝部分を調査した。検出した遺構は、坊間路西側溝SD五〇二一と、これに西から流入する二条の東西溝である。西側溝は幅三m、深さ〇・七mで、最上層の埋土の下は大きく



は三層の堆積層に分かれる。木簡四八点（うち削屑が五点）がこの溝の各層から出土した。上層からは宝亀年間（七七〇～七八一）、下層からは里制及び郷里制下の木簡が出土した。

8 木簡の釈文・内容

左京二条二坊坊間路西側溝SD五〇二一

(1)
・「宿直粟伊□　(123)×30×3　019
・「直秦長人□□　□〔物カ〕
佐伯若×

(2)
・「＜薄鯵卅四斤調物　＞」　149×23×1　031
・「＜宝亀〔四年カ〕□□料　＞」

(3)
「＜答志郡伊雑郷×　(100)×24×2　039

(4)
「＜安房国安房郡廣湍郷沙田里神麻部□□　(172)×22×6　039

(5)
「＜伊予郡石田里〔薗部臣カ〕□□□□」　123×21×3　033

(6)
柿本朝臣」　(145)×35×5　019

(7)
宇尓一籠　□　(111)×(8)×3　081

この溝からは、これまでにも宿直と記した木簡や荷札木簡が出土

している（『平城宮発掘調査出土木簡概報』二三）。(4)郷里制下の安房国からの荷札木簡は、左京二条二坊五坪の南で近年大量に出土した二条大路木簡中にも多く含まれ、いずれも調鰒のものである（『同』二二・二四）。その中には安房郡廣湍郷沙田里からの荷札も存する（『同』二二）。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『一九九一年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』（一九九二年）

同『平城宮発掘調査出土木簡概報』二六（一九九二年）

（館野和己）